

# 福山大学 生命工学部 自己点検・評価書

<b>基準1.</b>	<b>理念・目的</b>
<b>領域:</b>	<b>使命・目的、教育目的</b>

2020年度

生命工学部

<b>中長期計画</b>	<p>生命工学部の目的を、生命工学部規則第1条の2に「生命工学部においては、生命の仕組みを解明し、生物資源、環境、栄養・健康等、人類の抱える諸問題を解決する理論、技術、手法に関する教育・研究を行う。これらを通して、社会の要請に応える確かな能力を備えた人材の養成を目的とする」と定めている。また、生命工学部の教育目的として学部内の三つのポリシーと共に学生便覧に掲載している。</p> <p>学部の使命・目的、及び教育目的について、その適切性を検証する学部FDを毎年開催して、改訂が必要と判断された場合には見直しを行う。</p>
--------------	--

2020年度

生命工学部

<b>中点検項目</b>	<b>1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。</b>
<b>点検項目</b>	<b>① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。</b>
<b>現状説明</b>	生命工学部規則第1条の2に、「生命の仕組みを解明し、生物資源、環境、栄養・健康など、人類の抱える諸問題を解決する理論、技術、手法に関する教育・研究を行う。これらを通して、社会の要請に応える確かな能力を備えた人材の養成を目的とする。」と具体的に明確に定めている。
<b>年度目標</b>	現状を維持
<b>年度報告</b>	使命・目的は、生命工学部規則に具体的に明記されており、現状を維持した。
<b>達成度</b>	<b>S</b>
<b>改善課題</b>	
<b>根拠資料</b>	①生命工学部規則第1条の2
<b>点検項目</b>	<b>② 個性・特色を明示していますか。</b>
<b>現状説明</b>	本学部では、2014年度より「瀬戸内を醸す教育プログラム」を立ち上げた。まず生物工学科では「瀬戸内の里山からはじまる、食と環境のバイオサイエンス」というメインテーマを打ち立てて、教育・研究の改革と学科のポリシーの明確化を図っている。また、海洋生物科学科は、水族館施設や、フィールドでの実験・実習に適する穏やかな瀬戸内海に面した因島キャンパスなど、本学の特色を最大限に活用したのとなっており、現状でも他大学の学部・学科との差別化ができていると判断している。
<b>年度目標</b>	3学科が取り組む「瀬戸内を醸す教育プログラム」を学部として相互に関連させ、学部全体が協力することでその成果につなげる努力をする。また、学部HPなどでその成果を公表して、社会に広く明示する。また、昨年の自己点検評価で、学部の個性・特色として「瀬戸内を醸す教育プログラム」を推進する改善の方策として「大学ブランディング研究に成果を挙げている教員の学部内及び学科内の役割を軽減する」を挙げており、それを実行する。
<b>年度報告</b>	文部科学省補助事業としての、私立大学ブランディング事業「瀬戸内海しまなみ沿岸生態系に眠る多面的機能の解明と産業支援」は令和元年度で終了したが、令和2年度も福山大学の研究資金で、同研究を継続し発展させている。また、福山のバラ酵母プロジェクトなどで、本学部の特色を明示している。なお、生命工学部の「瀬戸内を醸す教育プログラム」及び生物工学科の「瀬戸内の里山からはじまる、食と環境のバイオサイエンス」と大学ブランディング研究の間には、関連はないという意見も学部内から出されているが、本学部及び生物工学科のコンセプトが先に出され、全学プロジェクトを立ち上げと推進に本学部の教員が貢献したことを考慮すると、あえて両者の間に境を設ける必要があるとは考えていない。
<b>達成度</b>	<b>S</b>
<b>改善課題</b>	特にありません。
<b>根拠資料</b>	① 私立大学ブランディング事業「瀬戸内海しまなみ沿岸生態系に眠る多面的機能の解明と産業支援」事業成果報告書 ② 福山のバラ酵母プロジェクト ③ 2020年度 福山大学委員会名簿
<b>次年度の課題と改善の方策</b>	
<b>点検項目</b>	<b>③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。</b>
<b>現状説明</b>	社会のニーズや背景の変化について、日常的に教職員が相互に情報交換するように努めている。受験産業の出す情報や文部科学省の通達や指針などの方針を共有するように努めている。

年度目標	外国からの留学生を受け入れる学習環境に必要な要件を整備して、留学生を受け入れる体制を整えたい。昨年度は社会の要請や背景の変化について、学部FDのテーマに取り上げることを計画したが、今年度は学部FDではこの点については取り上げない。
年度報告	年度目標に留学生受入れのための学習環境の整備を挙げた。しかし、海洋生物科学科は収容定員を超えて学生を受け入れているため、留学生を受け入れる余裕はない。生命栄養科学科は日本の国家資格取得「管理栄養士」を目的としているため、留学生受け入れには適切ではない。生物工学科は収容定員を充足しておらず、留学生も関心を寄せる学科であるため、受け入れる方向で検討したい。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症のため、世界の人の移動の制限があり、準備の機運は高まらなかった。 文部科学省の中教審答申、中間報告等に注意を払い、文科省の方針を確認している。
達成度	<b>B</b>
改善課題	生物工学科は、留学生受け入れ準備を開始する必要がある。
根拠資料	①「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号、令和3年1月26日） ② 大学設置基準の一部改正について（答申）（中教審第220号、令和元年9月18日）
次年度の課題と改善の方策	生物工学科は、留学生受け入れ準備を開始する必要がある。

2020年度		生命工学部
中点検項目	<b>1-2. 使命・目的及び教育目的の反映</b>	
点検項目	<b>① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。</b>	
現状説明	生命工学部の使命・目的および教育目的は学部発足時から一貫しており、その内容を学生便覧などで周知している。使命・目的および教育目的について、現時点は異論は出されておらず、教職員の理解と支持は得られていると考えている。	
年度目標	1-1-①または4-2-③の年度目標に記したように、学部SDのテーマの一つとして使命・目的及び教育目的の適切性を検証することで、教職員の理解を深めると同時に支持を広げる。	
年度報告	2021年3月11日（木）に、生命工学部FDとして「2020年度自己点検評価の達成度について」を実施して生命工学部の使命・目的および教育目的について理解を深めた。	
達成度	<b>S</b>	
改善課題	特に無し	
根拠資料	① 2020年度 自己点検評価書（報告編）（本書）	
次年度の課題と改善の方策	次年度も今年度と同様に、FD研修等で理解を深めることが望ましい。	
点検項目	<b>② 学内外へ公表し、周知していますか。</b>	
現状説明	教職員及び学生には、学部の使命・目的を学生便覧に掲載して周知している。また、社会一般に対しては生命工学部のホームページで公開している。また、高等学校関係者、受験生、受験生の保護者に対しては、大学案内などで周知するとともに、公開授業、公開講座、入試説明会等の機会を利用して説明している。	
年度目標	学生便覧、大学案内での周知はもとより、各種イベント、高校訪問等を通じて、学部の理念・目的の発信を継続して行う。	
年度報告	2021年度は学生便覧、大学案内で学部の理念・目的を周知させた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種イベント、高校訪問等は実施できなかった。	
達成度	<b>A</b>	
改善課題	特に無し	
根拠資料	① 2020年度は学生便覧 ② 2021年大学案内	
次年度の課題と改善の方策	学部の使命・目的の周知に努力する必要がある。	
点検項目	<b>③ 中長期的計画に反映していますか。</b>	
現状説明	使命・目的及び教育目的は、学部の様々な中長期的計画の根幹となるべきものと考えているので、さまざまな中長期的計画を考える際に、常に念頭に置いているため、十分に反映されていると考えている。	
年度目標	学部の使命・目的および教育目的を念頭に置き、中長期計画を立案する。	
年度報告	2021年度は教育研究機器の整備に関する中期計画を生命工学部の使命・目的を念頭に置いて計画した。	
達成度	<b>S</b>	
改善課題	特になし	
根拠資料	① 2021年度 生命工学部予算要求書（中長期整備計画書）	
次年度の課題と改善の方策	特になし	
点検項目	<b>④ 三つのポリシーに反映していますか。</b>	

現状説明	2016年度に三つのポリシーを全学的に見直した。その際、使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させている。
年度目標	三つのポリシーの運用面においても、使命・目的及び教育目的が反映されていることを検証する。学部SDのテーマの一つとして取り組む。
年度報告	2021年3月11日（木）に、生命工学部FDとして「自己点検評価の達成度」を実施して生命工学部の使命・目的および教育目的の3つのポリシーに反映させていることを検証すると共に、教職員の理解を深めた。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度 自己点検評価書（報告編）（本書）
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。</b>
現状説明	学部・学科の使命・目的および教育目的と教育研究組織の構成が整合性のあるものとなるように努めている。生命工学部を構成する3学科のそれぞれの事情を考慮して整合性が取れるように努力している。
年度目標	3学科の使命・目的及び教育目的に適した教育研究組織の構成に努めていく。
年度報告	各学科研究室名称について、教育目的に合致するように変更した。生物工学科は動物細胞工学科を動物学研究室に、ゲノム化学研究室を微生物学研究室に変更した。海洋生物科学科は食品衛生学研究室を新設した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	今後も研究室、教員組織について検証して、使命・目的に合致するように改革する必要がある。
根拠資料	① 2021年度教務のしおり（研究室配置図）
次年度の課題と改善の方策	今後も研究室、教員組織について検証して、使命・目的に合致するように改革する必要がある。

2020年度

生命工学部

**基準2. 学生****領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2020年度

生命工学部

中長期計画	<p>① 学生の受入れは、学部・学科のアドミッション・ポリシーに沿って行い、本学での学修により学修成果を上げる可能性の高い学生を受け入れるように入試制度の改善案を策定して入試戦略委員会に提案していきたい。</p> <p>② 修学支援は、学科単位で細やかに実施する。具体策は各学科毎に定める。</p> <p>③ 生活支援は、クラス担任、卒論指導教員に加えて、保健管理センターや心理カウンセラーと連携しながら、学科単位で細やかに実施する。</p> <p>④ 学部としてアメニティー空間及び周辺環境の整備方針を決める。</p> <p>⑤ 進路支援は、大学全体ならびに各学科が独自の方法で細やかに実施する。</p> <p>⑥ 就職先の質の向上、大学院進学者の増加に取り組む。</p>
-------	---

2020年度

生命工学部

中点検項目	<b>2-1. 学生の受入れ</b>
点検項目	<b>① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。</b>
現状説明	生命工学部の理念・目的に照らして適切なアドミッション・ポリシーを策定している。また、それを学生便覧、大学案内、学部HPに掲載して学内外に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	全学外部評価委員会では、アドミッション・ポリシーを高校生が簡単に理解できるように変更することが提案されている。
根拠資料	① 2020年度 全学外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	アドミッション・ポリシーの表現は全学的に統一する必要があると考えるので、その改訂に向けて、次年度は入試戦略委員会等に諮りたい。
点検項目	<b>② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。</b>
現状説明	2017年度に学部外部評価を受けた際、海洋生物科学科および生物工学科は、アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れができていたと評価されたが、生命栄養科学科は管理栄養士養成を目指すことをアドミッション・ポリシーに謳っているにもかかわらず、入学生、在学生の全員にそのことが十分伝わっていないところがあり、改善の余地があると指摘されている。
年度目標	入学生数だけでなく、学修意欲及び基礎学力などの質的な面についてもアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるように改善を試みる。



年度報告	2020年度も、各学科から学習意欲を喪失して数名の学生が退学した。入学試験では極端に学力の低い学生を不合格としているが、入学志望者が入学定員を下回る状況では、学力の高い学生だけを受け入れることは困難である。
達成度	<b>A</b>
改善課題	入学前に学生が持っている学修意欲を少なくとも維持させるように教育の工夫が必要である。
根拠資料	① 2020年度 生命工学部進級判定会議資料
次年度の課題と改善の方策	入学前に学生が持っている学修意欲を少なくとも維持させるように教育の工夫が必要である。
点検項目	<b>③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。</b>
現状説明	3つの学科はそれぞれフィールドが異なるため、学部としての分析は意味を持たないため、行っていない。3学科が学生受入れ状況を、入試広報室の詳細なデータを参考に検証し、その増減の原因について分析している。
年度目標	現状を維持
年度報告	2021年度入試では、全国的に農学系、生命系の受験者数が減少傾向にあり、本学部の入試でも減少した。また、合格者の入学手続き率が低かった。一方、入学手続き後の入学辞退者は減少傾向にあった。新型コロナウイルス禍が及ぼした2021年度入試への影響について、単年度だけの限られた情報では分析はできていない。
達成度	<b>A</b>
改善課題	新型コロナウイルス禍の入学試験に対する影響を分析する必要がある。
根拠資料	① 2021年度入学試験、合格者数、入学手続き者数、辞退者数状況報告（入試広報室）
次年度の課題と改善の方策	新型コロナウイルス禍の入学試験に対する影響を分析する必要がある。
点検項目	<b>④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。</b>
現状説明	海洋生物科学科は入学定員を80名から100名に増員しても、入学定員を満たしているが、生物工学科及び生命栄養科学科の定員充足率は低い。学生確保に関しては3学科が独自に学科の情報発信、教員や在学生の高校訪問、社会貢献などを行うとともに、生命栄養科学科では、国家試験合格率を高めることに努めている。
年度目標	学部として、入学定員充足率を高め、安定させるための方策を検討する。また、各学科にそれぞれの問題を克服するように促す。
年度報告	海洋生物科学科は2021年度も入学定員を満たしているが、生物工学科及び生命栄養科学科の定員充足率は低い。
達成度	<b>B</b>
改善課題	生物工学科及び生命栄養科学科に定員充足率は低い。学生確保に関しては3学科が独自に学科の情報発信、教員や在学生の高校訪問、社会貢献などを行うとともに、生命栄養科学科では、国家試験合格率を高める必要がある。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	生命栄養科学科では、国家試験合格率を高める必要がある。そのためには、学生の国試受験への意識を高く持たせる努力が必要である。生物工学科は、継続的に話題等を発信する必要がある。

2020年度

生命工学部

中点検項目	<b>2-2. 学修支援</b>
点検項目	<b>① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。</b>
現状説明	全学的には教務委員会及び大学教育センター運営委員会などの教学関係委員会で、教員及び職員が委員を務め、教職協働を実現している。また学部では、学部事務室と学部教員が連携して、学生の学修環境整備に努めている。教職協働を公表する意味が不明であり、学部としては公表していない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	①2020年度 福山大学諸委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。</b>
現状説明	学生実験にTAとして大学院生を参加させている。その雇用費用は、生命工学部の予算申請に組み込み要求している。大学院生には、TAに従事する前に事前教育を研究科長及び学生実験担当教員がそれぞれ事前教育を行っている。またTAの実施前と後にアンケート調査を実施して、大学院生自身の変化を測定している。
年度目標	現状を維持

年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特に無し
根拠資料	① TA実施アンケート調査結果
次年度の課題と改善の方策	特に無し

2020年度

生命工学部

中点検項目	<b>2-3. キャリア支援</b>
点検項目	<b>① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。</b>
現状説明	キャリア形成支援に関しては、全学的なキャリア支援システムに加え、学科独自の教育科目やガイダンス等、教育課程、組織体制を整備している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 令和2年度卒業生 進路一覧 ② 令和2年度 生物工学科就職活動報告(Office 365 SharePoint 生物工学科)
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。</b>
現状説明	キャリア形成支援に関しては、全学的なキャリア支援システムに加え、学科独自の教育科目やガイダンス等、教育課程、組織体制を整備している。
年度目標	各学科が同窓会活動の一部として進路先、卒業後の進路変更等の収集に努力する。また、学部長が各学科に確認する。
年度報告	各学科同窓会の単位で卒業生の進路先、卒業後の進路変更等に収集努力した。過去3年間にさかのぼっての検証は出来なかった。
達成度	<b>A</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度卒業生進路一覧（就職課） ② 生命工学部同窓会名簿
次年度の課題と改善の方策	過去にさかのぼって、卒業生の進路状況を検証することは、現状ではできない課題である。
点検項目	<b>③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。</b>
現状説明	資格取得に関しては、栄養士・管理栄養士（生命栄養科学科）、学芸員（海洋生物科学科）、教職・食品衛生監視員（3学科）の養成課程を整備している。また、キャリアデザイン I の他、臨地実習（生命栄養科学科）、インターンシップなどを活用し、1～3年次生に対するキャリア形成支援を行っている。生物工学科は海外インターンシップを単位化している。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターンシップはほとんど実施できなかった。管理栄養士国家試験合格率は50%を下回った。学芸員、教員免許状の希望者は予定通り出得た。
達成度	<b>B</b>
改善課題	管理栄養士国家試験合格率を高めること。
根拠資料	① 海洋生物科学科 学芸員 取得者一覧 ② 生命工学部 教員免許状 取得者一覧 ③ 生命栄養科学科 管理栄養士合格者一覧
次年度の課題と改善の方策	管理栄養士国家試験合格率を高めること。学生に資格取得への意欲を高く維持させるひつようがある。
点検項目	<b>④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。</b>
現状説明	就職委員会及び就職課が実施する進路指導・ガイダンスの実施に協力している。就職委員及び卒研指導教員が中心となり、徹底的な就職指導を行っている。学生の就職活動状況をそれぞれの学科会議に諮り、教員が情報を共有している。就職内定率が高いことから、適切に指導していると判断している。
年度目標	現状を維持
年度報告	3学科とも、学生は就職活動に熱心に取り組む、教員がそれを効果的にサポートした結果、就職内定獲得率はほぼ100%であった。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	①2020年度 卒業生進路一覧
次年度の課題と改善の方策	特になし

2020年度		生命工学部
中点検項目	2-4. 学生サービス	
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。	
現状説明	入学試験で特別奨学生AまたはB、2年次生以降は特別奨学生として、学費減免措置を受けている学生がいる。JASSO奨学金の継続受給手続きを指導している。また、2020年度から実施される高等教育無償化の適用を受けるよう、学生指導を始めた。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状の維持に加えて、コロナ禍に困窮する学生を支援するために学校法人福山大学が全学生に支援金5万円を支給した。	
達成度	S	
改善課題	特になし	
根拠資料	① 学校法人 学生支援金受給申請書	
次年度の課題と改善の方策	特になし	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。	
現状説明	『キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン』に従って発生防止に努めている。同ガイドラインを各学科の掲示板等に掲示し、入学時のオリエンテーションで学生に文書を配布している。生命工学部は2名のハラスメント相談員を置いている。大学教育センターが実施する「ハラスメント防止のためのeラーニング」を全教員が実施するように指示している。年度初めの学部教授会において、学部からハラスメント被害者、加害者を出さないように、意思確認をしている。	
年度目標	いかなるハラスメントも発生することがないように、その防止に努力する。そのために、2020年度も学部教授会において、ハラスメント被害者、加害者を出さないように、意思確認をする。	
年度報告	年度目標に反して、教員による学生へのハラスメント事象が発生した。ハラスメント対応委員会の調査によりハラスメントが認定された。これを受けて、ハラスメント発生防止に向けたFD研修会を開催して、教職員のハラスメントに対する理解を深めた。	
達成度	C	
改善課題	教員のハラスメントに対する認識を高める必要がある。	
根拠資料	① 生命工学部ハラスメント調査会報告書 ② ハラスメント対応委員会 調査報告書 ③ 生命工学部長のハラスメント行為指導書 ④ 生命工学部FD研修会資料「お互いを尊重した～ハラスメント防止に向けて～」	
次年度の課題と改善の方策	教員のハラスメントに対する認識を高める必要がある。	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。	
現状説明	生命工学部では、社会連携センター、福山市、福山商工会議所等と連携しながら、社会連携・貢献事業を実施している。具体的な取組を以下に示す。 ① ラオスLAODI社インターンシップ ② 福山ばら祭への出店 ③ 東村町文化祭への参加 ④ 市民フォーラム、 ⑤ 栄養士・管理栄養士向け社会人技術者向けの卒後教育講座、 ⑥ 府中産業メッセへの出展、 ⑦ 高校生アイデアどんぶり選手権、 ⑧ 本郷川一斉清掃の協力、 ⑨ 因島キャンパスの水族館見学、 ⑩ 出前水族館開催など	
年度目標	生命工学部は、多様な社会連携活動を行っているが、これらの活動は教員の負担が大きい。社会のニーズ、経費、労務負担と効果の関係を精査したうえで、効率的な社会連携事業に取り組む。	
年度報告	2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、国際交流、社会貢献活動などをほとんど行うことが出来なかった。	
達成度	C	
改善課題	コロナウイルス禍が落ち着くまでは、いかんともならない。	
根拠資料	①なし	
次年度の課題と改善の方策	ラオス国立大学農学部との教育・学術交流協定の実質的な活動を早期に開始する必要がある。	
2020年度		生命工学部
中点検項目	2-5. 学修環境の整備	
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。	



現状説明	校地、校舎については、文部科学省ならびに厚生労働省の基準を満たす設備を維持している。教育・研究に必要な設備については、大型機器類は共同利用センターが管理・運営をしているが、小型研究機器及び学生実験室の設備については、各学科単位が計画的に更新を進めている。生命工学部の16号館、17号館、18号館及び28号館の外装塗装、トイレ、廊下タイルの改修などを順次行っている。
年度目標	中長期的視野で学部の研究機器の整備方針を策定する学部内組織を立ち上げ、大型教育研究機器の中長期的な整備方針を策定して、予算申請等に反映させる。
年度報告	中長期的視野で学部の研究機器の整備方針を策定して、中長期的視野で学部の研究機器の整備方針を策定する学部内組織を立ち上げ、大型教育研究機器の中長期的な整備方針を策定して、予算申請等に反映させる。申請等に反映させた。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2021年度予算要求書 ② 2020年度中長期教育研究機器整備計画書
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。</b>
現状説明	学部教員によるICT教室の利用はまだ限定的である。16号館、17号館、18号館、因島キャンパスの実習・実験施設は十分に使用している。図書館運営委員会の報告から判断して、学部学生の図書館の利用状況はそれなりに活用していると思われる。
年度目標	教員・学生のICT活用を活性化する。
年度報告	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休業措置、遠隔授業とうを実施したため、ICT教室、実習・実験施設、図書館等を十分に活用する機会は少なかった。しかし、遠隔授業実施のため教員、学生のICT活用は比較的に高まった。
達成度	<b>S</b>
改善課題	教員のICTを活用した教育方法、技術をさらに高める必要がある。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	教員のICTを活用した教育方法、技術をさらに高める必要がある。
点検項目	<b>③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。</b>
現状説明	学生の学習環境、教員の教育研究環境、またアメニティ環境の整備を3学科が独自に行ってきた。ただし、3学科の学生のためのアメニティ環境の整備はまだ不十分である。
年度目標	学生が求めるアメニティ環境を調査し、学部としてのアメニティ環境整備を検討する。
年度報告	2021年度予算要求は2020年7月末までに行う必要がある。しかし、前期は臨時休業、遠隔授業等のじっしのため、学生の声を聞くことが十分にできなかった。しかし、28号館の休憩室のエアコンを整備し、快適に過ごせるように改善した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	アメニティ改善に向けた学生の声に耳を傾ける必要がある。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	アメニティ改善に向けた学生の声に耳を傾け、予算要求書に反映すること。
点検項目	<b>④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。</b>
現状説明	教室や学生実験室は、学生数等を考慮した施設・設備となっている。在籍学生数が多い海洋生物科学科では、因島キャンパスの整備を進めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	海洋生物科学科の入学生が130名となっても対応できるように、内海生物資源研究所の実験室等を整備、増築した。Zoomを利用した遠隔授業実施に対応できるように、生命工学部3学科の16、17、18号館の光回線を増強し、ネットワーク環境を整えた。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 内海生物資源研究所 整備計画書
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。</b>
現状説明	大学の「安全衛生委員会」と連携し、安全衛生マニュアル並びに学生の安全衛生規程に従って、安全・防災に取り組んでいる。
年度目標	避難経路の周知だけでなく、生命工学部の16、17、18及び28号館及びその周辺の管理（施錠管理、薬品管理、不要物の撤去等）を徹底する。
年度報告	大学の「安全衛生委員会」は危機対応基本マニュアル（第2版）を改訂した。これに従って、生命工学部の16、17、18及び28号館及びその周辺の管理（施錠管理、薬品管理、不要物の撤去等）を徹底した。また、生命工学部の各研究室で過剰に保管している毒・劇物を専門業者に依頼して廃棄処理した。
達成度	<b>S</b>

改善課題	特に無し
根拠資料	①危機対応基本マニュアル（第2版）
次年度の課題と改善の方策	特に無し
点検項目	<b>⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。</b>
現状説明	各学科内に劇物・危険物の管理に関する学科内委員を置き、安全管理及び管理システムの整備を行っている。また、全学的には「安全衛生委員会」に学部から委員を出して、全学的な取り込みに対応している。
年度目標	現状を点検し、形骸的な管理から実質的な管理へ改善する。
年度報告	生命工学部内で保管している毒物等（シアン化合物、水銀化合物、ヒ素化合物、アジ化ナトリウム、亜硝酸、四塩化炭素など、社会一般で毒物と認識されている化学試薬）について、専門業者に依頼して廃棄処理を行い、最小必要限の保管量とした。
達成度	<b>S</b>
改善課題	研究室単位で試薬を管理してきたため、学部内では必要量以上の毒劇物を保管している。これらについても最少化する必要がある。
根拠資料	① 毒物等廃棄契約書（アサヒプラテック株式会社） ② 福山大学化学物質管理規定 ③ 化学物質管理システム説明書
次年度の課題と改善の方策	毒劇物、一般化学試薬の保管量を最少化するため、化学物質管理システムを効果的に活用する必要がある。
点検項目	<b>⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。</b>
現状説明	全学的な福山大学安全衛生委員会に、生命工学部からは学部長、研究科長、保健管理センター長が委員として参画しており同委員会で審議・決定した事項を学部教授会において報告し、必要な対応を行っている。学部を設置している学部安全衛生委員会に各学科より教員1名を委員として選出しており、本委員会で審議し、必要な対応を行っている。危機対応マニュアル、緊急連絡先等の情報を構成員で共有している。施設等は適切に管理され、安全性と衛生が確保されている。研究関連施設は利用者（教職員・学生等）によって管理されている。共用部分は分担を決めて管理し、清掃は業者によって行われている。安全衛生委員会と連携し、安全衛生マニュアルならびに学生の安全衛生規程に従って、安全・防災に取り組んでいる。安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施している。また、作業環境測定のための特定化学物質・有機溶剤使用状況調査、作業環境測定の実施等、安全衛生委員会を通じて行われた大学からの指示に従って対応を行った。2019年10月19日に全学的に実施された防災訓練に本学部教員と学生が多数参加した。
年度目標	2019年度から実施される新しい危機管理体制の下で、危機管理、安否確認の確実な実施を目指す。そのために安全管理教育を徹底する。2020年1月から全世界に広がった新型コロナウイルス感染拡大のような事象に対応するマニュアルと学生教育を実施する必要がある。
年度報告	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、福山大学危機対応委員会が立ち上げられ、その指示のもとに適切な安全行動をとった。その結果、生命工学部からの感染者は出なかった。また、教職員、学生には「健康管理と行動調査」への回答を求め、健康管理に努めたが、学生の回答率は低かった。
達成度	<b>S</b>
改善課題	「健康管理と行動調査」への回答率を高める必要がある。
根拠資料	①「健康管理と行動調査」（福山大学HP） ② 学科別「健康管理と行動調査」回答率
次年度の課題と改善の方策	「健康管理と行動調査」への回答率を高める必要がある。未回答者のキャンパス内立ち入り制限も検討する必要がある。

2020年度 生命工学部

中点検項目	<b>2-6. 学生の意見・要望への対応</b>
点検項目	<b>① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。</b>
現状説明	全学的には、大学教育センターが「共通教育アンケート」、「フクトーク」を実施して学生の意見を汲み上げている。2018年度は学生委員会が「学生生活アンケート」実施して学修支援に関する要望も取り上げている。授業評価アンケートの一部は学生の意見を聞く機会とも考えられる。これ以上の調査は学生のアンケート回答疲れの原因になると考えている。
年度目標	現状説明欄に記載した種々のアンケート調査の結果を活用し、学生の意見・要望の把握に努める。とくに卒業生アンケートの調査結果について、学科ごとに精査して改善につなげるためのFD/SDを実施したい。また学部内に収集データ活用システムの構築を担当する部署を立ち上げる。



年度報告	卒業生アンケートの調査結果を踏まえて、教育の改善に向けた取り組みは出来ていない。しかし、学部FDにおいて、これらアンケート調査結果を改善に活用する必要性について共通認識をもつことができた。
達成度	<b>B</b>
改善課題	種々のアンケート結果を分析、活用する組織を立ち上げる必要がある。
根拠資料	① 2020年度生命工学部FD研修会報告書
次年度の課題と改善の方策	種々のアンケート結果を分析、活用する組織を立ち上げる必要がある。
点検項目	<b>② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。</b>
現状説明	学生個人の単位での心身の健康相談は、クラス担任・卒論指導教員が把握し、専門的助言が必要と判断される場合には、心理カウンセラーと保健管理センターに対応を依頼し、カウンセラーや医師と協力して学生に対応している。学生の経済的支援策には、教学としてかわかることは難しいが、種々の相談に応じている。学部全体としての心身の健康、経済的問題について、学生生活アンケートの結果などを資料として傾向分析ができればよいと考えているが、現状ではできていない。
年度目標	令和2年度は学生委員会により学生生活アンケートが実施される予定であるので、その集計結果を資料として、学生生活全般の傾向を分析し、学生指導の参考としたい。
年度報告	令和2年度は学生委員会により学生生活アンケートが実施されたが、まだ報告書が出されておらず、傾向分析等はできていない。次年度の課題に持ち越しとなっている。
達成度	<b>C</b>
改善課題	学生生活アンケート報告書の発行を待って、傾向分析を行い、学生指導の参考となる傾向をつかむ必要がある。
根拠資料	① 2020年度 学生生活アンケート報告書（発行予定）
次年度の課題と改善の方策	学生生活アンケート報告書の発行を待って、傾向分析を行い、学生指導の参考となる傾向をつかむ必要がある。
点検項目	<b>③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。</b>
現状説明	学修環境に関する要望を把握する体制は、2-6-①、2-6-②に記載した事項と同じである。それを分析する体制は構築していない。
年度目標	現状説明欄に記載した種々のアンケート調査の結果を活用し、学生の意見・要望の把握に努める。新たに、学習環境の整備が求められている事項を調査して、本学部固有の問題点を抽出するとともに、改善につなげたい。
年度報告	2-6-①、2-6-②と同じ。
達成度	<b>B</b>
改善課題	2-6-①、2-6-②と同じ。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	2-6-①、2-6-②と同じ。

2020年度

生命工学部

**基準3. 教育課程****領域： 卒業認定、教育課程、学修成果**

2020年度

生命工学部

中長期計画	生命工学部の学位授与(卒業認定)方針、教育課程の編成・実施方針、学修成果の判定方法などは学生便覧、大学HPに明示している。これらを定期的に点検し、教育内容の変化に応じて改善している。
-------	---

2020年度

生命工学部

中点検項目	<b>3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定</b>
点検項目	<b>① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。</b>
現状説明	学部・学科の教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、教育目的、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーとともに、2016年度に全学的に見直され、学生便覧に明記されている。また大学HPでも公表している。生命工学部では、在学生に対してオリエンテーション等で説明してきた。
年度目標	ディプロマ・ポリシー改訂から5年が経過した。改訂が必要か点検する。
年度報告	生命工学部FD研修会において、学部のディプロマ・ポリシーの適切性について審議し、現時点での改訂は不要であると判断した。学部のディプロマ・ポリシーを学生便覧に明記すると共に、大学HPで公表し、在学生に対して年度初めのオリエンテーション等で説明した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②福山大学HP（生命工学部のポリシー）

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	そのディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等は、全学的な取組の範囲内で、各学科の学科長と教務委員が中心となってそれぞれの学科の各基準を策定し、学科間での調整を学部教授会において審議している。2018年度から、卒業研究評価をルーブリック評価による点数化を実施している。ルーブリック表の学内外への周知は大学HPなどで適切に行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度は学生便覧 ② 福山大学HP（生命工学部のポリシー）
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	単位認定基準は各科目のシラバスに明記している。進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等は学生便覧に明記している。実際の運用については、学科、学部で審議し、全学教授会で承認を受けており、厳正に運用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度は学生便覧 ② 福山大学HP（生命工学部のポリシー） ③ 生命工学部教授会議事録（2021年2月24日） ④ 生命工学部教授会議事録（2021年3月8日）
次年度の課題と改善の方策	特になし

2020年度 生命工学部

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	学部・学科の教育目的を踏まえたカリキュラム・ポリシーを、教育目的、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーとともに、2016年度に全学的に見直し、学生便覧に明記している。また大学HPにもアップされ、周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度 学生便覧 ② 福山大学HP（生命工学部のポリシー）
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーを、ともに教育目的を踏まえて作成しているため、強い一貫性をもっているのは明らかである。2019年度から運用されているアセスメント・ポリシーでは、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーを関連付けて、教育成果を数値化して評価している。その結果、生命工学部の各学科の評価は高い評価結果となっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	① 生物工学科のアセスメント・ポリシー ② 生命栄養科学科のアセスメント・ポリシー ③ 海洋生物科学科のアセスメント・ポリシー
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。

現状説明	毎年度、学科単位で教務委員が中心となって、最良の教育課程を構築するべく、時間割を編成している。これをカリキュラムマップに図式化して学生にわかりやすく提示している。
年度目標	引続き、各学科が最適な時間割を策定すべく、カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していく。
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度 学生便覧
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。</b>
現状説明	大学教育センターが共通教育アンケートを実施して、学生の意見を把握しながら教養教育を計画・実施している。生命工学部からは自然分野の教養科目の提供を予定している。また、英語科目の専門英語を学部教員が担当している。
年度目標	生命工学部の学生に必要な教養教育について、学部の意見を持つ。
年度報告	教員対象の2020年度の共通教育アンケートは隔年実施のため実施していない。1年次生対象の共通教育アンケートは実施したが、その集計等はまだ行っていない。生命工学部からは自然分野の教養科目を提供したが、これに加えて2021年度は「瀬戸内の里山・里海学」の一部を生命工学部3学科から教員各1名が担当することになった。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度シラバス 「備後に学ぶ地域学」「くらしとバイオ」 ② 2021年度シラバス 「瀬戸内の里山・里海学」 ③ 2020年度 学生便覧
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	
現状説明	生命工学部の授業では、アクティブ・ラーニング、小テスト、中間試験などを実施している。教材の提供や自宅研修の課題提出のためにセレッソを活用する教員もいるが、ICTをほとんど活用できていない教員もいる。
年度目標	全教員が、それぞれの取組みの中で効果的な方法で授業を実施して、学生から授業評価アンケートで高い評価を受けられるようにしたい。
年度報告	2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学生実験等をのぞき対面授業をほとんど行うことが出来なかった。しかし、授業実施の新たな形態としてICTを活用した遠隔授業が学則で認められるようになり、生命工学部の全教員がICTを活用した授業方法の修得、開発に取り組んだ。2020年度前期の授業評価アンケートで、遠隔授業に対する学生の評価を調査した結果、高い評価を得ている。
達成度	<b>S</b>
改善課題	ICTを利用した遠隔授業の長所、短所、評価について深く探求する必要がある。
根拠資料	① 2020年度授業評価アンケート報告書（大学教育センター） ② 2020年度 福山大学教育シンポジウム講演（佐藤英二教授）資料
次年度の課題と改善の方策	遠隔授業で実施した授業科目の成績評価の方法を開発する必要がある。
点検項目	<b>⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。</b>
現状説明	各学科のディプロマ・ポリシーを念頭に置いて、卒業判定の基準やルーブリックを作成しているので、整合性は十分に考慮している。本学部での学修の集大成である卒業研究をルーブリック評価により点数化し、その妥当性を検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	卒業判定については、生命工学部の各学科がそれぞれの学科会議で各学科ディプロマ・ポリシーを念頭に置いて原案を作成し、生命工学部教授会で審議した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 生命工学部教授会議事録（2021年3月8日）
次年度の課題と改善の方策	特になし

2020年度	生命工学部
中点検項目	<b>3-3. 学修成果の点検・評価</b>
点検項目	<b>① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。</b>



現状説明	大学教育センターが主導し、2017年度に大学全体のアセスメント・ポリシーが作成された。同時に、各学科のアセスメント・ポリシーも作成された。令和元年度は、各学生の自己点検評価の資料として、ディプロマ・ポリシーに沿った学修成果成果をリーダーチャート化して全学生に配布し、各学生の自己点検評価の資料としている。現在のアセスメント・ポリシーは運用しながら、その評価方法の是非を検証している途中である。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。大学教育センター運営委員会において、アセスメント・ポリシーによる評価方法が検証されている。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 生物工学科アセスメント・ポリシーによる教育成果の評価結果 ② 生命栄養科学科アセスメント・ポリシーによる教育成果の評価結果 ③ 海洋生物科学科アセスメント・ポリシーによる教育成果の評価結果
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。</b>
現状説明	学生による授業評価アンケートの結果を担当教員に通知し、改善案を含む報告書を学科長に提出している。評価結果及び提出された報告書を基に、学科長は年度末に学科としての報告書を大学教育センター長に提出している。 また、大学教育センターが実施するアセスメント・ポリシーに基づくプログラム評価結果は、学部及び生命工学部3学科ともに十分に高いスコアを挙げており、大きな改善課題は見当たらなかった。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学教育センターが実施するアセスメント・ポリシーに基づくプログラム評価結果は、十分に高いスコアを挙げており、大きな改善課題は見当たらなかった。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度 授業評価アンケート実施報告書（大学教育センター） ② 各授業科目に対する各教員から提出された授業評価アンケート報告書 ③ 2019年度学科教育プログラム点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	特になし

2020年度 生命工学部

<b>基準4. 教員・職員</b>	
<b>領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援</b>	

2020年度 生命工学部

中長期計画	① 学部の理念・目的に則り、各学科が教育内容の中長期的計画に基づき、教員の補充や教員構成の是正など、教員組織の編成に関しては計画的に検討する。 ② 教員の高齢化が目立ち、60歳前後の教員の割合が高く、教員の平均年齢を下げる必要がある。 ③ 教員の資質向上に資するFD活動を活性化する。
-------	--

2020年度 生命工学部

中点検項目	<b>4-1. 教学マネジメントの機能性</b>
点検項目	<b>① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。</b>
現状説明	学則により、学長の権限と責任、及び学部長、学科長の役割を明確に規定している。学部長は全学組織の中で学部に関する事項を掌理し、学科長は学部長のもとで学科運営について責任を負っている。人事や予算等の学科運営の主要な内容については、必ず学部長と協議して決定している。全学的事項は、評議会で審議・承認され、その内容を学部教授会で学部長が報告している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度生命工学部教授会議事録（各回で評議会の審議事項を報告）
次年度の課題と改善の方策	特になし

点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	本学は、約65の全学的委員会を設置している。委員会の中には、さらに複数の部会を設置している委員会もある。本学部教員は、これら委員会で学部代表として、あるいは学科代表として委員を務め、それぞれの役務毎に役割を果たしている。委員が一部教員に集中することがないように、バランスよく配置している。また、学部内にも種々の委員会を設置しているが、適切に役割を分担し、責任を果たしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	① 特になし
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	職員の配置と役割は事務局が計画的に行っており、学部は関わっていない。現状では職員のサポートにより、教学マネジメントの機能性は高く維持されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	全学的な委員会には教員と職員が委員、幹事、庶務を務め、教職協働を実践して、教学マネジメントの機能性を高めている。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①2020年度諸委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	特になし

2020年度

生命工学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	生命工学部3学科の授業科目と担当教員は適合していると判断している。学部全体で、教員の年齢構成が高齢化している。教員の男女比は、学部全体では概ね適切であるが、学科間での隔たりが大きい。生物工学科に関しては年齢構成、性別構成、職位、また海洋生物科学科に関しては性別構成の是正に取り組む必要がある。また、2017年度に受審した生命工学部外部評価において、教員の高齢化と女性教員(専任教員)の偏りに対して改善を要するという指摘を受けている。
年度目標	人事に関する問題を早急に改善することは難しい。教員構成の是正を念頭におき、学部人事に取り組む。
年度報告	生物工学科及び生命栄養科学科では、教員の補充、教員の年齢構成等に改善の余地が残された。海洋生物科学科では教員の急な退職のために、生態学分野の授業を担当する教員に欠員を生じている。一方、水産増殖の分野には中堅教員を採用することが出来た。
達成度	B
改善課題	昇任の遅れている教員に対して研究業績の蓄積、大学運営に対する貢献を指導する必要がある。また、生物工学科は年齢構成を是正する必要がある。
根拠資料	① 2020年度 生命工学部教員年齢表 ② 2020年度 教員採用要望書(生物工学科、海洋生物科学科) ③ 2020年度 教員昇任推薦書(生物工学科、海洋生物科学科)
次年度の課題と改善の方策	昇任の遅れている教員に対して研究業績の蓄積、大学運営に対する貢献を指導する必要がある。また、生物工学科は年齢構成を是正する必要がある。次年度の採用人事、承認人事で改善を目指す。
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。

現状説明	<p>大学設置基準に定められた生命工学部3学科の教員数と教授数は次の通りである。</p> <p>生 物 工 学 科：8人（うち教授4人）  生命栄養科学科：8人（うち教授4人）  海洋生物科学科：9人（うち教授5人）、</p> <p>令和2年4月1日現在の教員数は、次の通りである。</p> <p>生 物 工 学 科：11人（うち教授9人）  生命栄養科学科：11人（うち教授5人）  海洋生物科学科：13人（うち教授8人）</p> <p>3学科とも大学設置基準を満たしている。</p> <p>なお、生命栄養科学科は管理栄養士養成施設として、教員は管理栄養士有資格者4人と医師1人、及び助手5人（うち3人は管理栄養士有資格者）が必要であり、その条件を満たしている。</p>
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2021年 大学案内（118ページ、教員名簿）
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。</b>
現状説明	大学教育センター等が開催するFD研修への教員の参加を促している。また、学部独自のFDを1年に1度の割合で実施している。2019年度は「学生及び教職員の安全確保」及「中国の高等教育・研究機関の現状と今後の発展」をテーマとするFD研修会をそれぞれ4月および12月に開催した。
年度目標	学部にFD委員会を設置している。この委員会が主導して、FD研修会を開催する。卒業生アンケートの集計結果を基に、教育環境、教育方法等総合的に検証して改善に結び付けた。い。「学生の安全教育」「留学生受入に必要なこと」「学部の使命・目的、及び教育目的の適切性の検証」等を予定している。
年度報告	大学教育センターが2020年9月に開催した教育シンポジウムに多くの学部教員が参加した。また、生命工学部FD研修会を2021年3月11日に開催し、多くの教員が参加した。FD研修会のテーマは諸事情により「ハラスメントの発生予防」とした。年度計画に予定していたテーマでFDを開催することは出来なかったため、次年度の課題となった。
達成度	<b>A</b>
改善課題	年度計画に予定していたテーマでFDを開催することは出来なかったため、次年度の課題となっている。
根拠資料	①生命工学部FD研修会 配布資料（2021年3月11日）
次年度の課題と改善の方策	年度計画に予定していたテーマでFDを開催することは出来なかったため、次年度の課題となっている。次年度の学内FD委員会に引き継ぐ。
2020年度 生命工学部	
中点検項目	<b>4-3. 職員の研修</b>
点検項目	<b>① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取組みを実施していますか。</b>
現状説明	大学全体として、2019年度は「福山大学ブランディング研究成果発表会」「科研費獲得に関する研修会」「障害を持つ学生に対する対応」などのSD研修会が開催され、生命工学部の多くの教員が参加した。
年度目標	全学的SD活動に教員の積極的な参加を促し、教職員の職能開発に取り組む。
年度報告	大学教育センターが主催した教育シンポジウムに多くの学部教員が参加した。2020年度はコロナ禍のため、SD研修会は開催されなかったが、遠隔で実施された大学基準協会大学評価研究所大会（3月2日）大学基準協会大学評価研究所公開研究会（3月15日）に生命工学部長が参加して内部質保証に関する研修を行った。また、広島大学が主体となって推進する「産学官連携ダイバーシティ推進協議会」に学部長が委員として参加し、男女共同参画について、他大学との情報共有を図った。
達成度	<b>A</b>
改善課題	全学的SDの開催が必要である。
根拠資料	① 令和2年度 大学基準協会大学評価研究所大会 「学修成果を巡る今とこれから～達成度表の在り方を問う」配布資料 ② 大学基準協会大学評価研究所公開研究会 「大学の質保証の行方を考える」配布資料 ③ 第10回産学官連携ダイバーシティ推進協議会 配布資料
次年度の課題と改善の方策	全学的SDの開催が必要である。
点検項目	<b>② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。</b>



現状説明	学生ポータルサイトのZelkova、学修支援システムのCerezoを活用している。また、Office 365を活用する教員も増えつつあるが、まだそれらの機能を十分に使っていない。また、Office 365を活用する教員も増えつつあるが、まだそれらの機能を十分に使っていない。
年度目標	教員にICTの活用を積極的に促す。
年度報告	コロナ禍に対応するため、ICT活用が必須となっており、活用する頻度は高まった。特に、Zoomの活用、Office365のSharePoint、Outlookなどの活用は著しく増加している。一方、Karinの利用も遅ればせながら開始し、学部議事録等を保管している。
達成度	<b>S</b>
改善課題	更にICT活用を推進する必要がある。
根拠資料	① なし
次年度の課題と改善の方策	更にICT活用を推進する必要がある。

2020年度 生命工学部

中点検項目	<b>4-4. 研究支援</b>
点検項目	<b>① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。</b>
現状説明	大学運営業務に費やす時間は増加傾向にあり、教員の研究時間確保は難しくなっている。研究設備等の研究環境については、高額な分析機器は共同利用センターが維持管理することになっている。研究費については、各教員が外部研究資金獲得に努力している。2017年度に受審した生命工学部外部評価において、外部委員から教員の研究時間が減少していることについて懸念が示され、改善の必要性が指摘された。
年度目標	労働基準法が改正され、働き方改革を推進する方針の下、研究時間を確保することは難しい。大学運営業務を効率化させて、研究時間を確保できるように努める。研究施設・設備の整備に向けて、中長期の整備計画を各学科がそれぞれの特徴を踏まえて立案すると共に、例えば、超純水製造装置の設置とその維持などのように学部共通で整備する。また共同利用センターを活用するため、その整備計画に積極的に意見を提出する。
年度報告	未来創造館に新たに導入される教育・研究機器、移転配置される機器等について共同利用センターに協力して計画を作成した。働き方改革に伴う勤務時間削減を補うために、自主研修として勤務時間外の研究の実施を認めることにしたことで、土曜日を研究時間に充てることが出来るようになった。学部の中長期の教育・研究機器整備計画を作成し、今後の整備方針を明確にした。
達成度	<b>A</b>
改善課題	中長期の教育・研究機器整備計画に基づいて予算要求をすること。
根拠資料	① 生命工学部 中長期教育・研究機器整備計画書 ② 共同利用センター 中長期教育・研究機器整備計画書
次年度の課題と改善の方策	学部の中長期の教育・研究機器整備計画に基づいて予算要求をすること。
点検項目	<b>② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。</b>
現状説明	研究安全倫理委員会が設置されており、遺伝子組換え生物安全倫理部会、動物実験安全倫理部会、微生物等倫理部会、及びヒト倫理部会で、研究課題を適切に審査している。研究活動を行う過程で生じる可能性がある不正行為や研究費の不正使用については「研究関連ガイドブック」を事前に理解し、不正防止に努めている。学部教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識を高めている。また、学内に不正防止計画推進室が設置され、学内における教員に関する不適切なことがあった事項について調査をし、適切な処置が行われる体制となっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	未来創造館に実験動物飼育舎が新設整備されたことを受け、研究安全倫理委員会の動物実験安全倫理部会が中心となって、動物実験管理規則を改訂した。また、新たな化学物質管理システムの導入に先立ち、安全衛生委員会が化学物質管理規程を制定した。研究活動を行う過程で生じる可能性がある不正行為や研究費の不正使用を防止するために、教員に対してコンプライアンス教育をオンデマンドで実施した。新入生には4月に研究倫理教育を実施した。学部教員の研究倫理に関わるeラーニング受講は今年度は行わなかった。学内に不正防止計画推進室が設置され、研究費の不正を点検するためにモニタリング調査を実施した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度研究費モニタリング調査報告（不正防止計画推進室） ② 動物実験管理規則 ③ 化学物質管理規程
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。</b>

現状説明	教員は学内の研究助成金、外部研究資金の獲得に向けて自由に申請できる。また、前年度の研究業績に応じて個人研究費が支給されている。4年次生や院生の研究費は教材費として配分され、各学科でそれぞれ適切に配分している。外部資金及び教材費等は学部事務室が厳正に管理している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 学内研究助成金申請案内（評議会議事録 2021年1月） ② 学内教育研究助成金申請案内（評議会議事録 2021年1月） ③ 学内研究費申請書及び評価基準書
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。</b>
現状説明	全学的な取組として、公的研究費を適正に運営・管理するためのガイドライン「研究関連ガイドブック」が全教員に配付されている。また、FD研修会等で教職員に周知徹底されている。全構成員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けている。また、学内に不正防止計画推進室が設置され、学内における教員に関する不適切なことがあった事項について調査をし、適切な処置が行われるように運営されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 「研究関連ガイドブック」（改訂版） ② 研究費に関するコンプライアンス教育動画（Youtube）
次年度の課題と改善の方策	特になし

2020年度 生命工学部

## 基準6. 内部質保証

### 領域： 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2020年度 生命工学部

中長期計画	生命工学部自己点検評価委員会の活動を活発化し、PDCAサイクルを適切に機能させ、教育・研究活動の質を向上を目指す。
-------	---

2020年度 生命工学部

中点検項目	<b>6-1. 内部質保証の組織体制</b>
点検項目	<b>① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。</b>
現状説明	全学委員会である全学自己点検評価委員会が、毎年自己点検評価の実施を促している。自己点検評価活動の具体的内容は、全学共通であるため、本欄では省略する。学部には学部自己点検評価委員会を設置している。委員長は学部長が務め、適切に運営している。責任体制も確立している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度 自己点検評価書（報告編）（本書） ② 生命工学部自己点検評価委員会細則 ③ 福山大学自己点検評価規程
次年度の課題と改善の方策	特になし

2020年度 生命工学部

中点検項目	<b>6-2. 内部質保証のための自己点検・評価</b>
点検項目	<b>① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。</b>
現状説明	2017年度は、大学が日本高等教育評価機構による認証評価を受け、結果をホームページで公表した。また、2017年度には生命工学部も学部外部評価を受け、その結果をまとめた報告書を大学HP上で公開し、教員及び学生やその保証人も閲覧できるようにし、情報公開と情報共有に努めている。
年度目標	自己点検評価を自主的・自律的に実施するように努める。
年度報告	学部FD研修会を開始して、自己点検評価書（報告編）の内容を学部教員が共有した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし

根拠資料	① 生命工学部FD研修会（2021年3月11日） ② 2020年度 生命工学部 自己点検評価書（報告編）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	2018年度に大学にIR室が開設された。IR室では2018年度はデータ収集のみを行う方針のため、データの活用はしていない。
年度目標	IR室に設置された情報収集システム『Karin』に学部データを集約する。集約する情報として「学部教授会議事録」「学科会議議事録」「社会連携活動実施資料」等を考えている。
年度報告	学部の単位で種々のデータ収集を十分に行っているとは考え難い。
達成度	<b>B</b>
改善課題	学部単位では困難なことが多い。IR室の協力が必要。
根拠資料	① なし
次年度の課題と改善の方策	学部単位では困難なことが多い。IR室の協力が必要。

2020年度

生命工学部

中点検項目	<b>6-3. 内部質保証の機能性</b>
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み（システム）をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	福山大学独自の自己点検評価活動を実施することで、PDCAサイクルが円滑に稼働するように工夫されている。現状に改善の必要がある場合には年度目標を設定することが計画（P）に該当する。年度末に実施状況を報告することは実行（D）に該当する。達成度を記すことは点検（C）に該当する。次年度の課題と改善の方策を記すことが改善（A）に該当する。この自己点検評価システムの機能性は改革推進委員会で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	学部の自己点検評価の在り方を検証する必要がある。
根拠資料	① 2020年度 全学自己点検評価書（報告編）
次年度の課題と改善の方策	学部の自己点検評価の在り方を検証する必要がある。
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	本学では「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」、「学術研究における倫理審査について」、「男女共同参画宣言」、「研究費の取り扱いについて」、「個人情報管理基本方針」が制定されており、教員に周知され、意識の徹底が図られている。また、大学で起こりやすい種々のハラスメント、研究の不正、研究経費の不正等に関する全学レベルのFD研修会に参加することで、コンプライアンス意識を徹底している。また、倫理規定を含む研究活動は、研究安全倫理委員会の許可を得たうえで実施している。学部教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けた。学部教員全員が生命工学部で開催した研究倫理教育を受講した。新入生に対しては研究倫理教育を実施した。また4年次生に対しては、研究室単位で研究倫理教育を実施した。これらの成果の具体的な検証は行っていないが、不正等の発生はない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン ② 個人情報管理基本方針 ③ 研究費ガイドブック
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

生命工学部

## 基準7. 福山大学ブランディング戦略

### 領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2020年度

生命工学部



中長期計画	2015年度に本学独自の研究プロジェクトとして、「瀬戸内の里山・里海学～生態系、資源利用と経済循環、そして文化～」が立上げられた。その中で、里山・里海の「自然の把握」「資源利用と経済循環」に関して、本学部は密接に関連しており、研究実績を積み上げていきたい。具体的には、環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオリギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索、など多岐にわたるプロジェクト発展させたい。文部科学省の大学ブランディング研究補助金はの交付は終了したが、大学としてのブランディング研究は継続する方針であり、継続して実施する。
-------	--

2020年度 生命工学部

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	学部教授会で教員に周知させた。学生に対して、また教員に対してもまだ十分とは言えない
年度目標	ブランディング研究発表会に学部教員の参加を促し、理解を深める。学生に本学のブランディング戦略を具体化するブランディング研究を、教養ゼミや各学年の演習などの時間に説明する機会を設ける。
年度報告	2020年度はコロナ禍による臨時休業、遠隔授業が主な授業形態となったために、学生への周知を十分に行うことはできなかった。しかし、授業科目に組込まれた「瀬戸内の里山・里海学」の内容は、授業の一環として周知させることができた。また、テレビ、ラジオ、新聞、大学HP（学長室ブログ）等による広報活動を活発に行うことでも周知できた。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	① バラ酵母によるビール醸造の新聞掲載記事 ② 北木島活性化プロジェクトのパンフレット ③ バラ酵母による清酒醸造の新聞掲載記事
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	生物工学科の福山大学ワインプロジェクトによる「さんぞうの赤ワイン」、福山バラの酵母プロジェクトによる「福山バラ酵母パン」、海洋生物科学科の新規養殖システムによる「シロギスの養殖」など、社会に貢献する観点から他にはない社会から選ばれる取組みを実施している。
年度目標	現状説明の取組みに加えて、中長期計画に示したその他の取組の推進を行う。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①7-1-①と同じ
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システムなどの取組を行っている。一部の取組は産学官民連携の取組に発展している。
年度目標	現状を継続しながら、発展させる。
年度報告	現状を継続しながら、発展させる。生命工学部は2020年1月にラオス国立大学農学部と学部間で教育・研究交流協定を締結している。生物工学科は海外インターンシップを授業科目の中に新設して、国際感覚をもつ学生を育成している。しかし2020年度は、コロナ禍のため、実施できなかった。
達成度	B
改善課題	特になし
根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	㊦ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオリギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索などの取組を行っている。その成果は大学HPのアクセス数、新聞記事の評価、受験者数の推移などで検証している。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取組みの強化と、成果の検証を継続する。
年度報告	現状説明に記載した取り組みを着実に推進した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①バラ酵母を用いたクラフトビールの開発日本酒の共同開発と上市 ②バラ酵母を用いた天保一酒造との日本酒の共同開発
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊧ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	「福山大学ワインプロジェクト」に関わる活動に従事し、ワイン醸造の知識と経験をもつ学生が地域のワイナリーに就職したほか、地域で学芸員、教員等を目指す卒業生を多く輩出している。また、地元企業に就職する学生も多い。彼らが地域の中核となる職業人となることを期待している。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取組みの強化と、成果の検証を継続する。成果の検証は、具体的には、研究推進委員会が実施する年度毎の自己点検評価書を利用して、本学部が果たした貢献度を評価する。
年度報告	卒業後、水産関係、水族館関係、食品関係、医療・給食関係に多くの学生が就職し、それぞれの職場で職業人として活躍している。
達成度	A
改善課題	特になし
根拠資料	① 2020年度 卒業生進路一覧（就職課）
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	㊨ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	水族館・小中学校等での環境教育、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システムなどの取組を行っており、いずれも備後地域での取組であり、地域との密な連携のもとに進める教育研究である。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取組みの強化と、成果の検証を継続する。成果の検証は、具体的には、研究推進委員会が実施する年度毎の自己点検評価書を利用して、本学部が果たした貢献度を評価する。また、学科長等連絡会議においてその成果を検証する。
年度報告	水族館・小中学校等での環境教育、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、水産資源次世代養殖システムなどの取組を継続して行った。いずれも備後地域での取り組みであり、地域との密な連携のもとに進める教育研究である。その成果はPJ研究の評価委員会で検証されている。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①なし
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	㊩ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	ブランディング研究で実施する研究やプログラムには、フィールドワークなどのアクティブ・ラーニングを活用した教育研究活動も多く展開している。フィールドワークは人間関係の形成や成功体験の獲得にも役立つと考えられる。
年度目標	「学問にのみ偏重しない全人教育」という難しい課題を成果に結びつけるように努力する。検証するには至っていないと考えている。
年度報告	点検課題への回答は極めて難しい。体験型学修を学生実験などで実施していることが該当すると考えている。
達成度	B
改善課題	特になし

根拠資料	① 2020年度 生物工学科シラバス 「生物観察実習」「果樹栽培加工実習」など
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	私立大学ブランディング研究事業は、2019年度で文部科学省の支援が終了した。事業を発展的に継続するためには、補助金及び外部資金を新たに獲得する必要がある。
年度目標	外部研究資金の獲得を目指して、積極的に申請する。
年度報告	研究推進委員会が中心となって次のPJを計画しており、その発表を待つて対応することにした。
達成度	<b>B</b>
改善課題	特になし
根拠資料	①なし
次年度の課題と改善の方策	特になし

2020年度 生命工学部

中点検項目	<b>7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト</b>
点検項目	<b>① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオリギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプログジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索などの取組を行っている。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取組みの強化と、成果の検証を継続する。
年度報告	ブランディング研究に参画している教員は活発に研究に取り組んだ。
達成度	<b>A</b>
改善課題	PJ研究を積極的に推進するためには、現在、参画していない教員もPJ研究への参画を誘う必要がある。
根拠資料	①なし
次年度の課題と改善の方策	PJ研究を積極的に推進するためには、現在、参画していない教員もPJ研究への参画を誘う必要がある。
点検項目	<b>② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。</b>
現状説明	大学の予算、および私立大学ブランディング事業の予算で実施している。また、ブランディング研究の成果と基に、科研費や企業との協働研究により外部研究資金を獲得する教員が増えつつある。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 生命工学部 外部資金獲得状況
次年度の課題と改善の方策	特になし
点検項目	<b>③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。</b>
現状説明	新聞報道、TV放映、地域情報誌、学報、HP、学会、学術誌など様々な媒体を通して発表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし
根拠資料	① 中国新聞掲載記事 2020年11月5日 「バラ酵母で地ビール」 ② 中国新聞掲載記事 2020年11月26日 「バラ酵母で酒づくり」
次年度の課題と改善の方策	特になし